

令和7年度第3回坂東市まち・ひと・しごと創生有識者会議 記録（概要）

【日 時】令和8年2月4日（水） 午前9時00分～9時40分

【場 所】坂東市役所3階 大会議室

【出席者】

○座 長 上坂理一委員

○座長職務代理者 石山巖委員

○委 員

古谷直美委員、板垣正美委員、鈴木篤委員、永田和基委員、川島仁一委員、
石塚真梨子委員、鈴木久美子委員
（欠席 飯塚利幸委員）

○事務局

青木企画部長

企画課 桃井課長、篠塚課長補佐兼係長、落合係長、川澄主幹、中山主幹

【内 容】

1 開会（午前9：00）

・議事に入るまでの進行：企画課 桃井課長

2 あいさつ（上坂座長）

本日は大変ご多用の中、また早朝より会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。

今回の第3回会議では、第2期坂東市まち・ひと・しごと創生総合戦略のパブリック・コメントについて、第3期坂東市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案についての2点に関する討議が予定されております。

皆様におかれましては、活発にご意見をお寄せいただき、この会議を実りある議論の場としていただきますよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

3 議事

（1）議事第1号

『第3期坂東市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案に係るパブリック・コメントの結果について』

・令和7年12月10日から令和8年1月8日までパブリック・コメントを実施したところ、ご意見は寄せられなかった旨を報告いたしました。

（2）議事第2号

『第3期坂東市まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終案について』

・資料1、資料2及び資料3に基づき、令和8年度からの新たな計画となる第3期坂東市まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終案について説明し、ご意見を頂戴しました。

●質疑応答

[1] 具体的な取り組み内容の検討に関する進捗状況について

各KPIに対して、その達成に向けた取り組み内容が固まっている項目の占める割合はどの程度でしょうか。また第3期総合戦略の計画期間に入っていない段階ではありますが、現時点での状況を伺います。

⇒（事務局）

記載された取り組みにつきましても、いずれも検討段階から着手に進むものであるか、又は既に実施中の取り組みをさらに充実させるものとなります。

例えば、110ページの「公民連携による地域産業の活性化」におきましては、昨年4月に開業し、今まさに運営中の「坂東将門の里」に関する取り組みがあり、また坂東PAハイウェイ・オアシスにつきましても、先日外回りPAが供用開始されましたが、こうした状況を受けて担当課で事業を進めているところです。

その他の指標につきましても、ソフト・ハード共に、既存の取り組みを充実させることや、検討段階にあるものに着手することにより、今後4年間で指標の達成を目指すものです。

[1] 総合計画や国総合戦略との関係性について

確認ですが、市の総合戦略にある課題やKPIは、国の施策を受けて設定している、ということでしょうか。また、それを受けて総合計画があり、その他の詳細な施策は各々の会議体で更に決定されるということでしょうか。

⇒（事務局）

市総合戦略を取り巻く他の計画としましては、まず国総合戦略があり、市総合戦略においてその内容を勘案することが定められております。県総合戦略についても同様に勘案の対象とされておりますが、県も本市と同様に総合戦略の改定作業中であるため、前回会議までと同様、引き続き国の「地方創生2.0基本構想」を基本として策定作業を進めております。

また、市総合計画につきましても市独自の計画であり、市の施策全てを計画の対象とし、市が策定する他のあらゆる計画に対し上位計画となる、市の最上位計画と位置付けられております。市総合戦略が市総合計画と矛盾することがないように両者を一体で作成し、市としての取り組みと国の構想を受けた取り組みを一体的に進めていく、という点を表現しております。

[1] いばらき出会いサポートセンター入会金助成について

105ページの「①いばらき出会いサポートセンター入会金助成交付数」について、坂東市や茨城県全体における現時点の入会者数や、助成の内容を伺います。

⇒（事務局）

大変恐れ入りますが、具体的な入会者数につきましては、この場でお答えすることが難しいところです。ですが、市の結婚相談事業の一環としまして、こちらの出張登録会をサポートセンターと市が連携して実施しており、その際の来客数は毎回数名程度であったと伺っています。今回このような補助を行うことにより登録者数を増やし、婚姻件数の増加を図るものです。

また、助成の内容につきましては、事業主体である県やサポートセンターへの登録料が2万円程度かかるため、そちらを市から一部助成するものとなります。

[1] コンパクト・プラス・ネットワーク構想とその実現手法について

107ページ「④コンパクト・プラス・ネットワークの構想に基づくまちづくり」について、KPIとして市街地に居住する方の割合が掲げられています。インフラ維持の費用を考慮し、効率的なまちづくりを進める取り組みとありますが、一方で市街地の外に住んでいる方が不安を抱くことも考えられるため、推進の手法は難しいところがあると思います。

その中で、市街地に人を集める具体的な事業としては、新しく市街地に住んでいただくことや、あるいは周辺部から市街地に住み替えていただくなど、様々な手法がありますが、現時点ではどのような方法で目標達成に向けて進める予定でしょうか。

⇒（事務局）

コンパクト・プラス・ネットワーク構想につきましては、その推進に係る計画として、坂東市立地適正化計画があります。こちらは、国全体で推進されているコンパクト・プラス・ネットワークの構想を踏まえ、各々の自治体で策定される計画であり、その中で居住誘導区域などを設定し、生活に必要な施設なども含め、区域内への集約を図ることなどを定めております。

ですが、決して居住誘導区域の外、いわゆる市街化調整区域などで暮らす方々にご不便をおかけするという意図によるものではありません。全体としての生活水準を維持しつつも、将来的には徐々に中心部へと皆様の生活の本拠を移していただくことが必要であろう、との構想に基づいた計画です。

具体的な事業といたしましては、まず、立地適正化計画に基づく届出制度があり、市街地の外で一定以上の規模の建物を建てる際、届出が必要となります。

また、戸建住宅を取得する子育て世代を対象とする「子育て世代定住促進奨励金」によりまして、住宅の新築・分譲は市街地で多く行われ、居住誘導区域は市街化区域と概ね一致していることから、自然と市街地に人が集まる流れが生じています。

[1] K P I 「市民アンケート「住みたいと思う人の割合」」の現状値について

[2] K P I 「20～44歳女性人口百人当たりの出生数」について

K P I 「市民アンケート「住みたいと思う人の割合」」の現状値について43.1%とありますが、前回会議での第2期総合戦略の効果検証においては45.7%とされており、数値の不一致が見られますが、どちらが正しい数値でしょうか。

また、K P I 「20～44歳女性人口百人当たりの出生数」について、第2期総合戦略における同様の指標と比較し、対象とする年齢層が変更されていること、及び単位を千分率から百分率に変更したのは、それぞれどのような理由からでしょうか。

⇒（事務局）

K P I 「市民アンケート「住みたいと思う人の割合」」の現状値につきましては、45.7%が正しい数値です。43.1%につきましては記載誤りのため、修正いたします。

K P I 「20～44歳女性人口百人当たりの出生数」における年齢層の変更につきましては、各種の人口推計において手本とされる、国立社会保障・人口問題研究所の最新の人口推計におきまして、出生数を算定する際に基礎とする女性の年齢層が、15～49歳から20～44歳に変更されたことを踏まえ、市の指標でも考え方を合わせたことによるものです。

また、千分率から百分率に変更した点につきましては、千分率での表記が一般の方々にはあまり馴染みが無いものと思われたことから、使われることの多い百分率に変更したものです。単位は変更されましたが、表現しようとする数値自体に変更はございません。

6 閉会（午前9：40）

- ・本日いただいたご意見を踏まえつつ策定作業を進め、本年3月中に市総合戦略を決定・公表する予定であることを申し上げました。